

令和4年度 第22回 大学院セミナー

令和4年8月18日

分野名 (責任者名)(内線)	病理学分野 責任者名(下川 功) 内線(7051)
演題	内因性 ROS と外的要因による加齢促進
講師等	東海大学 准教授 石井 恭正 先生
概要	<p>健康ブームの火付け役となった『酸化ストレスと老化』の研究成果について、現在、数多くの報告がある。酸化ストレスを生じる原因は、エネルギー代謝に依存した内的要因と放射線や紫外線といった外的要因に分けられ、それぞれの生体への影響が明らかにされてきた。</p> <p>永らく我々は、ミトコンドリア電子伝達系の部分阻害による内因性 ROS の過剰産生と老化の研究成果について報告してきた。近年、電子伝達系複合体 II-III の電子伝達阻害による内因性 ROS の過剰産生は、特異的な病態を発現することなく、短寿命の原因になることを明らかにした。さらに、摂餌や感染誘導等、外的要因の負荷が加わることで、生体組織の加齢現象をより促進し、疾患感受性を増大していることを報告している。</p> <p>本セミナーでは、内因性 ROS の蓄積が炎症性の加齢生理基盤を構築し、さらに外的要因が加わることで、病態発現に至ることが示唆された臓器・組織に焦点を当てる。詳しくは、外的要因に高カロリー-HFHS 摂餌による肝障害、紫外線による眼角膜障害、大豆レシチン ω-6 脂肪酸過剰摂取による肺障害、ウイルス感染モデル poly(I:C)投与による造血幹細胞障害について、我々の研究成果を紹介し、議論させて頂きたい。</p>
開催日時	令和4年9月15日(木) 16:30 ~ 18:00
場所	医学部基礎棟5F 第一病理所見室
備考	NPO) Medical information network 協賛

- 先端医療科学特論(基礎編)
- 先端新興感染症病態制御学特論
- 日本語(Japanese)
- 対面(Face to face)

- 先端医療科学特論(臨床編)
- 先端放射線医療科学特論
- 英語(English)
- オンライン(Online)